

教員養成に係る教育の質向上へ向けての取り組み

本学においては、各学科が中心となり学科の独自性を活かした教員養成を行っている。1年次には教職オリエンテーションを開き、教職課程履修に向けた心構えや教員の社会的使命などを講じ、一人ひとりの学生に使命感を育むように指導している。個々の専攻においては各学科のコース主任や担任がきめ細やかな学生指導を行っているが、教職に関しても一人ひとりの履修状況を各学科担当者が把握している。加えて、教職担当教員は一人ひとりの学生が教員としての資質を有しているか否かを「履修カルテ」を通じて判断する。そのため常に学科専任教員との連携を密にしている。教育実習の巡回指導に関しては、原則として学科の専任教員が中心となり全学生の研究授業に合わせて巡回し指導している。

教育課程の編成にあたっては、きめ細かな学習支援を充実させ、教育効果を高めるために実習系科目では20名程度、講義系科目では40名程度の学習集団を設定している。少人数教育を導入することで、一人ひとりに対して目の行き届いた教育を実践し、学びへの主体的参加を促しつつ社会人・職業人として着実に成長してほしいと考えたからである。また、教育実習の事前事後指導に関しては、教職担当の専任教員が、講義以外の日常的な場においても積極的に行っている。

履修科目以外においても、課外で行う教員採用試験対策ゼミ、複数の自治体との協力のもと参加する学習支援ボランティア、小学校に赴き教員と学生が力を合わせて開催するアートキャラバン、高大接続に関わる高等学校での出張講義、複数の地域で行われる自治体及び地域企業主催のイベントでの出張演奏など多くの活動が行われている。これら活動のうちのいくつかは、専任教員の手によってその概要や成果がまとめられ、学内紀要論文・学会報告・全国私立大学教職課程研究連絡協議会による実践集などにより一般に周知させている。